

1	審議会名	第12回 塩田地域協議会
2	日 時	平成24年3月8日 午後1時30分から午後4時15分まで
3	会 場	上田市塩田公民館小ホール
4	出席者	伊藤委員、大口委員、岡村委員、甲田委員、小林委員、清水委員、関田委員、竹下委員、玉木委員、中村委員、西沢委員、丸山委員、南委員、峯村委員、宮沢委員、山極委員、若林委員
5	市側出席者	神林塩田地域自治センター長、海瀬地域振興政策幹、志摩センター長補佐
6	公開・非公開等の別	公開
7	傍聴者	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成24年3月15日

協 議 事 項 等

1 開 会（神林自治センター長）

2 地域協議会長あいさつ

協議会として、地域の公共交通や「困りごと」のアンケート調査結果を踏まえて、今後に活かすためそれぞれ意見書として提出していきたい。本日は、意見書として概要を決めて、細部については次回に確認したい。市長も地域交通には、意を注いでいただいているので地域を挙げて取組んでいきたい。平成25年には、塩田中学校の55周年記念事業を計画しており、地域を挙げて取り組むため多くの関係者で実行委員会を組織しているので協力をお願いしたい。

3 協議

(1) 地域の課題について

ア 塩田地域の公共交通について

（地域交通委員長） 別所線電車存続については、調査結果からは新たな考えはなかった。全国的には行政、企業、地域が協力して存続活動を展開している。真田地域では、真田地域公共交通利用促進協議会を組織して地域交通の維持の取組みを進めている。電車に限らずバスについても存続を考えているので事業者、行政のほか地域住民が努力しなくてはならない。今後の取り組みとしては、仮称「塩田地域公共交通利用促進協議会」を、本年秋を目途に設立して地域の運動を盛り上げてもらいたい。

（補足説明） 市長のスタンスは、「乗って残す」から「乗らなければなくなる」へと変化してきている。塩田地域においても、信州の鎌倉シャトルバスが減便となっており、別所線電車存続期成同盟会の運動も自分たちの運動となりえていないので、仮称「塩田地域公共交通利用促進協議会」を設置して地域全体の運動とすることが重要である。

（会長） 地域の公共交通の充実にあたり、利用促進協議会は地元でつくるものであり、地域のがんばりを市に見せるものであるので委員の意見はどうか。

（委員） 公共交通がなくなることは、高齢者にとって不便なことであるので、専門委員会を継続する中で自治会への働きかけが必要である。

（委員） 単にJAの買物バスに人を乗せるわけにはいけないので、利用促進協議会での取組みが大切である。

（委員） 利用促進協議会の設置は大切なことであるが、乗ってもらうことが重要なことであるので、住民の協力のほかに行政の支援もお願いしたい。

（委員） 地域住民が、常に公共交通を気に止めておくために、利用促進協議会の設置は大切なことである。以前のアンケート結果からも、一定の住民負担を考えている住民が多いのも事実であり、公共交通の良さを再発見してもらいたい。

（委員） バスや電車の利用者は、それぞれ年間約100万人で公的補助は、それぞれ年間約1億円となっており、人の動きを考えたら同じ約100万人を運ぶのにどちらが効率が良いか検討すれば

- よい。電車の維持や管理は、事業者が行いバスについては、道路管理者が負担する部分がある。
- (委員) 電車とバスを残すことについて、どう両立させるのか運動や取組みが難しい。
- (委員) 周辺企業へ協力を求めたらどうか。
- (委員) 別所線電車存続期成同盟会への負担金は、関係自治会連合会などの理解があり増額してきている。
- (委員) 別所線電車存続期成同盟会の予算は、約 150 万円くらいだと思うが利用促進協議会においても一定の予算が必要である。講演会などに多額の費用を費やしているが、本当に必要なものか住民意識の高揚が重要である。
- (委員) 利用者をいかに増やすか検討してもらいたい。
- (会長) この段階では、できるだけ早い時期に仮称「塩田地域公共交通利用促進協議会」を設置することを確認することとします。
- (委員) 意見書では、利用促進協議会のことは触れないほうが良いと思う。
- (委員) 意見書は、利用促進協議会のことは抜かして、人口増に結びつく施策が重要である。
- (委員) 地域の努力や協力を表現して、そのうえに行政の支援を要望してはどうか。

イ 「困りごと」アンケート結果について

- (地域振興委員会) アンケート結果では、高齢者特有の体力の衰えから生ずる日常生活の中での困りごとが多かった。具体的には家の周囲の雪かき、除草、庭木の手入れ及び布団干しなどを上げる回答が多かった。他には、医療や介護を踏まえた将来への不安や、買物や通院での移動手段がないなどの悩みを訴える意見があった。
- (委員) 地域医療や地域交通など将来への不安を述べた意見が多かった。
- (委員) アンケートの結果は、各自治会へフィードバックするとしてその利活用が難しい。
- (委員) 回答では、一定程度の負担金の拠出を認める声があったが、自治会の問題とされていないものもあった。
- (委員) 回答では、食事に困るという意見のほかに、自治会などでの個人負担に対して免除してもらい心苦しとする意見があるなど将来に不安の声があった。
- (委員) 他人に感謝をする回答がある中で、地域の「声掛け」が必要と感じた。
- (委員) アンケートの結果は、自治会の問題とする内容が多いので、各自治会へフィードバックしてもらいたい。問題の解決にあたっては、自治会連合会との連携が必要である。
- (委員) アンケートの結果は各団体、委員、関係機関に関係することもあるので関係者へフィードバックするほか、自治会連合会との連携を密にしてもらいたい。
- (委員) アンケートの結果を、今後の取り組みにどのように活用していくのが重要である。全体的に地域福祉の視点が重要であると感じた。
- (会長) アンケートの結果については、しっかりまとめて自治会などへのフィードバックのほか、地域の課題の解決に向けて活かしていくこととします。

(2) その他

ア 地域予算について

- (委員) 塩田地域においても地域予算が欲しいが、どのように使うのかシステムが不明確であり、9 地域協議会平等に扱って欲しい。
- (委員) 地域協議会だよりを年 2 回発行しているが、住民の目に付いて読んでもらうために、全て業者による印刷ができるよう予算付けをお願いしたい。
- (委員) 旧上田市は旧町村と違っている。2 年前に視察で富山へ行ったがそこでは、各地域に除雪と防犯灯のみに使える予算があった。旧町村と均衡の取れた職員配置が必要である。
- (委員) 職員数の減少は小さな行政となると思うが、地域予算の使途については、地域協議会で議論するのかどうなるのか。
- (委員) 丸子地域自治センターでは、土地改良課の職員がいるが塩田では出来ないものか。
- (委員) 一定の規則における地域予算が欲しいと思うが、それには住民の要求が必要である。

(会長) 市の考え方としては、一定のルールの下に各地域自治センターで使える地域予算の制度について検討中である。地域自治センターの充実＝地域予算の充実となる。

イ わがまち魅力アップ応援事業について

個性あるふるさとづくり応援事業における新規事業は2件、特色あるまちづくり応援事業における新規事業は3件である旨の報告。

4 その他(当面に日程)

地域づくり講演会	3月14日(水)	15:00	文化センター
正副会長会	3月16日(金)	9:00	パレオ2階会議室
3月協議会(わがまち事業審査)	3月21日(水)	13:30	塩田公民館大ホール
市立産婦人科病院竣工記念講演会	3月24日(土)	15:00	ひとまちげんき・健康プラザうえだ
意見書提出	3月27日(火)	10:00	市役所

5 閉会

* 会議概要は原則として公開します。会議終了後、1週間以内に行政改革推進室へ提出してください。

* 非公開及び一部非公開としたものについては、その理由を記載してください。